

令和7年度 第2回 勝山市子ども・子育て支援審議会 議事録

日 時 : 令和7年12月22日(月) 午後7時～8時10分
場 所 : 教育会館3階 第4研修室
出席者 : 審議会委員 出席 12名 欠席 2名

教育長あいさつ

教育長 今年度11月末までの出生数60名。昨年の同時期は59名でほぼ一緒だが、今年度3月末までの出生数は80名を超える見込み。昨年は76名。昨年よりは多いが目標の100名には届かない状況である。今年度は子育て支援の新規事業として応援金115の給付をスタートした。これを核として市役所全体で115プロジェクトを立ち上げ、それぞれの担当課で子育て支援、移住定住などの少子化対策の取り組みを検討している。その一方で野向地区で野向小学校あり方検討委員会の審議が始まった。9月には区長や地元関係者より要望書が提出された。少子化の影響で小学校の大きな動きが出ている中で適切な対応をしていかなくてはという強い思いを持っている。

本日の第2回勝山市子ども・子育て支援審議会では、事業の中間報告、市内3園の利用定員などについて説明をさせていただくので忌憚のない意見をお願いしたい。

会長あいさつ

会長 本日、短大で出生数についての授業をした。昨年の県内の出生数は4500名。大野市もまもなく100名を切る予想。福井市は1630名で県内の35%の子が出生している。少子化の中、未来の保育士は1人1人が子育て支援としてできることを考えていかなくてはいけない。

本日は子どもが減る中どうしていくかの話が中心となる。忌憚のないご意見をお願いしたい。

議事 (1) 令和7年度 勝山市こども・子育て支援事業等の取り組みについて 資料1

事務局説明

質疑応答など

委員 115応援企業に認定されるのは、基準を達成している企業が認定されるのか。なりたいたいと思っただけでなれるのか。115応援企業のブランド力を上げるためにも、子育て施策を実施しているなどの基準はあったほうが良いと思う。市民にとっては

子育てを応援してくれているという安心感を持てるし、企業にとっても求人などメリットがあるのではないかな。

事務局 基準のようなものは設けてない。なりたい企業になっていただいている。市のHPなどで募集している。各企業が育児休暇の拡充などの子育てに取り組んでいる。

事務局 主旨は企業を含めた社会全体で子育てを応援する目的。基準は設けていないが、くろすかつやまを委託している Amour 代表者が企業回りをされていて各企業の取り組みなどの情報収集をしており、市の子育て支援施策を企業の若い従業員の方に届けている。また 115 応援企業として、くろすかつやま PR 隊公式インスタグラムで子育て支援などの取り組みを紹介している。企業側としてどのような施策が必要なのかなどの声も聞くことができ、市と企業が連携した支援策も考えている。

委員 応援金 115 の目的は、結婚や移住者が増えることだが効果はでているか。

事務局 転入時のアンケートでは、6 世帯が応援金 115 がきっかけで転入したと回答している。転入・転出のトータルは年度末にならないと結果はでないが、現時点では肌感覚で転入が増えていると感じている。

委員 応援金 115 は子どもの夢を応援する目的ということで、勝山でその夢が叶えられるといいと思っている。しかし、勝山の高校生と話をすると「勝山は好きだが、やりたいことは勝山ではできない」という声が聞かれる。高校生のやりたいことと合致し、高校生の興味のある企業の誘致も考えてほしい。また、市内に魅力ある企業がたくさんあるがその魅力が高校生に届いていないと思う。市内の企業の魅力を伝える環境づくりもお願いしたい。

事務局 市長と中学生の対談の中でこども達が将来なりたい職業は消防士・保育士が多かった。子どもの夢は 100 通りありその全部を勝山で実現するのは難しいが子どもの夢、意見を市の施策に反映させるのは大切なことと考える。市では、今年度、産業フェアで保育士・消防士・看護師の職業体験をした。また、一度は市外に出てしまっても子育てで勝山に帰ってきたいという郷土愛を育てる施策もやっていく。商工文化課、未来創造課、建設課などと話し合っって夢を叶えられる、帰ってきたくなるまちを目指していく。

委員 幼小接続協議会、架け橋カリキュラムでは実際どのようなことをしているのか説明をお願いしたい。気がかりの子どもさんの支援なども含まれているか。園の保育士が小学校に送り出した後の子どもの様子を知る機会がないという声も聞いている。保育士が安心して送り出せる取り組みなのか。

事務局 幼小接続協議会は園の 5 歳児の担任と小学校の 1 年生の担任の情報交換会。気がかり児は教育支援委員会や 5 歳児健診で福祉と教育が連携し支援をすすめている。

気がかり児に対しては、巡回相談として保育カウンセラーから指導のアドバイスをもらったり、教育監や保健師も加わり、情報交換や児の様子を見て連携をしている。

架け橋カリキュラムでは1年生になった年度初め、前年度担任をしていた保育士と1年生の担任との情報交換がある。また、年度末には5歳児の担任保育士と1年生の担任との情報交換もあり、5歳児と1年生をつなぐ2年間を対象とした支援となっている。

委員 架け橋カリキュラムでは、5歳児の園児と小学生の交流会が年3回程度ある。園児と小学生が遊ぶ中で学校の紹介や保育士と学校の教諭が子の様子を実際に見ながら情報交換している。気がかり児情報も丁寧な引継ぎが行われている。

委員 教育会館の改修について、1階2階は子どもの遊び場スペースとなり、3階に多世代交流スペースを作るようだが、高齢者にとって3階は使いにくいのではないか。

事務局 1階のホールは今のように入居者のサークルや講座が利用できるように残していく。3階は子どもから高齢者すべての人が使えるフリースペースとする予定だがエレベーターも設置し活用しやすいようにしていく。

委員 応援金115は18歳までの給付で大変ありがたいが、18歳から大学などで市外に出た人が、勝山に就職するために帰ってくる人に対しての補助金はあるか。大学など市外で勉強し高い知識を持ち帰り勝山のために活躍する人に対しての施策も検討してほしい。

事務局 奨学金制度、大学進学への支援などを現在検討している。意見を参考にさせていただく。

会長 資料のパンフレットには県外県内から移住すると支援があるとなっているが、例えば大阪の大学で4年間県外に住んでいた場合、勝山に帰ってきたら対象になるのか。

事務局 大阪からの転入となれば対象となるが大学在学中、勝山に住所を置いておくと対象とならない。

このパンフレットは子育て支援の他、移住や教育環境など1つのパンフに集約してある。勝山市民でも知らなかったということもあるので県内外の人に勝山のことを知ってもらうのに利用していく

事務局説明

会長 利用定員の変更はこの審議会で意見をもらい最終的に市が決定することとなっている。少子化で出生数 100 人を切る現状の中、実態に合わせて定員を下げることになるが、この決定で不利益になる子はいない。

質疑応答など

会長 意見はないということで、了承が得られたとさせていただく。

議事 (3) 乳児等通園支援事業（こども誰でも通園制度）について **資料 3**

事務局説明

会長 この事業は全国の制度でありこども家庭庁よりアナウンスし整備してきた。今年度は本格実施ではなく、来年度より国の給付制度として始まる。こども計画で量の見込みを出していたが、利用実績が少なく実態に合わせて変更したいということ。利用実績の少なさと国からの算定基準が改めて出されたので修正させていただきたい。

また、基本的記載事項はこども計画に位置づけないといけなかったとの通達がこども家庭庁よりあったので追記させてほしい。

来年度より、給付事業になるので、新たに実施をはじめることになる園が増えていくと予想している。市内園はどの園も実施基準を満たしている。令和 8 年 3 月に認可にあたっての意見を書面でお願いしたい。

質疑応答など

会長 量の見込みの変更について意見なし。

計画の追記についての依頼。

実施事業所の許可は紙面で意見を伺うことに異議なし

議事 (4) その他について **チラシ**

事務局 ①物価高対応子育て応援手当について

国の経済対策として子に 1 人 2 万円の支給を全国で実施することとなった。

0 歳から 18 歳が対象で児童手当で口座を把握している世帯にはその口座に振り込むというお知らせの通知をする。手続きなしで振り込むことになるが、支給を辞退する人、口座を変更したい人、令和 7 年 10 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日に出生した人は届け出が必要。1 月に通知を送り 2 月上旬に支給できるよう準備をし

ている。

②教育会館の改修について

貸館、会館利用の変更をお願いしたい。3階の第1、3、4会議室は6月より貸館を中止する。冷房が壊れてしまい、改修が控えていることと、設備が30年以上経っているため修理ができない。9月補正後に改修工事が始まることから、11月より教育会館全てが貸館と会館利用ができなくなる。

各団体は来年度の事業計画を立てると思うのでお知らせしてほしい。広報等でも周知する。

また、設計ができればワークショップをする。各団体に参加依頼や書面で意見をもらいたいのをご協力をお願いしたい。

委員

ひとり親対象の食材配布のボランティアをした際、4年生の子を持つ母が「児童センターの利用は4年生までと言われた。母の仕事が終わるまで1人で家で留守番をさせている。帰るまで子どものことが心配」と子育てに行き詰っている様子だった。パンフレットには、学童保育は利用制限がないと書いてあるが、実態と違うのか。

事務局

学童保育は6年生まで利用できる。確認し対応する。

副会長閉会のあいさつ

副会長

現在、応援金115は対象者2610名に対して2493名の申請。ひとり親の食材配布も対象者の半分しか申請がなかった。申請がスムーズにできない人や出せない理由なども含めそういう人を取りこぼさないような支援をお願いしたい。

来年度、勝山高校で地域みらい留学が始まることで入学希望が定員を上回る予定と聞いている。県外から来た人に勝山に残って頂き勝山を盛り上げていけるよう勝山市の子育て施策とともに見守っていきたい。